

内閣府本府政策評価有識者懇談会（第5回） 議事要旨

日時：平成20年3月7日（金）14:30～16:10

場所：内閣府庁舎第3特別会議室

出席者（懇談会メンバー）

座長 山谷清志 同志社大学政策学部・大学院総合政策科学研究科教授  
田辺国昭 東京大学大学院法学政治学研究科教授  
田中弥生 独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部准教授  
南島和久 長崎県立大学経済学部地域政策学科講師

<懇談会で出された主な意見>

（第3次内閣府本府政策評価基本計画の策定について）

- 大括化することにより「施策」に係る部分は、実際何をやっているのかということがわからなくなるのも困るので、その点については、評価書の中でも情報を盛り込んでおいた方がよい。他方で、政策評価の単位の範囲を大括りにする場合、その単位での総合評価も重要。
- 今までは「施策」単位を評価の対象としたのを「政策」単位とするとなると、予算との関係ではどのようなになるのか。  
⇒要求の枠が「政策」単位に対応する大事項単位で対応するという形になっている。その中で担当部局としては、中で何に重点を置き、メリハリをつけて要求をしたらいいのかということを考えていくことになると考えている。
- 政策単位を再編成するというのはあるのか。  
⇒消費者行政一元化など議論になっているものもあり、基本計画対象期間中に見直すこともあり得ると考えている。

（平成20年度内閣府本府政策評価実施計画の策定について）

- 必ずしも満足度評価には拘泥する必要はない。各業務の中で重点を置くものにつき、それを目標とすべきと考える。内閣府の場合には、コーディネーションとか後は次年度に向けての検討とかというものが仕事としては大事。
- 学者の立場としては、適当な指標がなければ、事業そのものを見直すべき、と言ってしまふ。しかし、それを簡単にできるかどうかは別。なかなかそういう風に簡単にいかないことは理解。その場合、ロジックモデルを提示することは、逆に議論の単純化等につながる可能性もあり慎重に考えるべきとの議論もあろう。
- ロジックモデル自体は、理解しやすいというか概要をつかむために便利かなと思う。ただし、ロジックモデルの中で出ているアウトプットとアウトカムを分ける線については、無理に色分けをしなくてもよいかもしいない。

以上